

## 誌上クラス会 株式会社 エイト日本技術開発 OB会だより 訪問日 8月20日

関東緑土会 小林哲男（昭和47年卒業）

今回の誌上クラス会は、「株式会社 エイト日本技術開発 本社」を訪問しコミュニケーションを行いました。

添付資料の会社案内をお読みになるとお分かりですが、株式会社エイト日本技術開発は丸ノ内線新中野、中野富士見町駅にほど近く、従業員数 879 名（平成 26 年 6 月 1 日現在）の総合建設コンサルタントです。「<http://www.ejec.ej-hds.co.jp/>」

今回は、中山幹事のご紹介で佐々木さん（平成 8 年卒業）を通じ緑土会OBの皆さんにお会い出来ました。同社の副社長をされている磯山さんと佐々木さんの 2 名の皆さんに集まって頂きました。

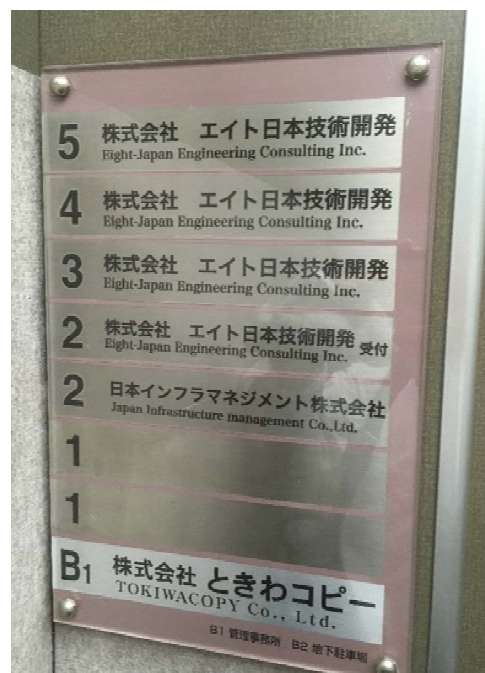
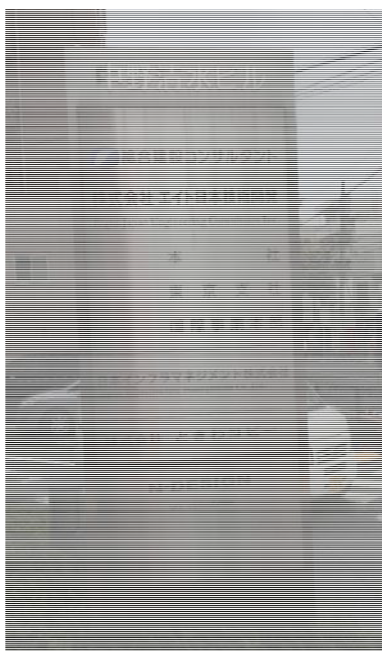
磯山さん（昭和 5 1 年卒業）、佐々木さん（平成 8 年卒業）とコミュニケーションが出来ました。後ほど紹介しますが現在 1 9 名の武蔵工大/東京都市大 OB・OG が在籍とのことでした。

訪問者は関東緑土会 船越顧問・中山幹事・小林の 3 名です。

1 時間ほどお忙しい中時間を頂きましたが、いつもの様に「関東緑土会」からは「誌上クラス会」の趣旨と「緑土会の活性化」のための 5 項目のお願いと雑談を交えコミュニケーションを図りました。

具体的には「11月10日の緑土会総会への出席依頼」「りょくど・関東緑土会だよりへの記事の提供依頼」「緑土会活動への積極的な参加」「緑土会OBの紹介」「交友会へのメール登録」など緑土会活動の活性化への協力依頼です。

佐々木さんには別添資料としてご覧いただけますが「会社紹介」と「武蔵工大/東京都市大 OB・OG の近況や感想」として記事を纏めて頂きました。



## 添付資料

- 1、「株式会社 エイト日本技術開発 武蔵工大/東京都市大 OB・OG の近況や感想」
- 2、エイト日本技術開発所属の武蔵工大および東京都市大 OB・OG 一覧 2018. 6. 1 現在（19 名）
- 3、「株式会社 エイト日本技術開発」 パンフレット
- 4、緑土会OB 名刺 訪問日 20180823

左より 磯山さん、佐々木さん



左より 中山幹事、船越顧問、磯山さん



## 【武蔵工大/東京都市大 OB・OG の近況や感想】

- 全国各地の業務があるため自然と情報が入ってきたり、直接行く機会も多いので、行動範囲が広がってご当地の楽しみが増えてきています（若手）。
- 今年初めての異動転勤を経験しました。都市大 OB、OG が多くて助かる場面も多いです（若手）。
- 自分の考えを基に資料作る機会が多くなり、以前と比べて主体的に仕事をするようになりました。しかし、今でも分からないことだらけであり、その都度、上司・先輩に助けられています。知識が物を言う職業のため、長く勤めることでより良さが見いだせるのでは、と感じています（若手）。
- 現在は、積算や事務処理、打合せ参加などをさせて頂いております。日々の業務にとってもやりがいを感じており、楽しく毎日をご過ごしております（若手）。
- インターンシップとアルバイトでお世話になり、明るい雰囲気の新入社員が多いところに惹かれて入社しました。入社して数年経ちましたが、今もその印象は変わっていません（若手）。
- 入社当初から河川の設計に携わっていますが、毎回違う現場の仕事なので、その土地の環境や文化などを知ることから仕事が始まるところがおもしろく、仕事以外の知識も得られるので充実感があります（若手）。
- 国土インフラ部河川・港湾グループに所属しダム関係の業務に従事しています。普段の業務はもちろん、社内有志のイベントなど和気藹々とやっております（中堅）。
- 入社後、割とすぐに結婚、出産を経験し、その後技術の仕事からは離れましたが、複数回の育児休暇を取得した現在まで勤められているのは、会社の配慮と上司や同僚の理解のおかげだと感謝しています（管理職）。
- コンサルタント業界は仕事の面白味を理解するまでに 10 年ぐらいはかかります。でも、面白味が理解出来るとやめられてないものがあります。娘らは「パパは会社に遊びに行っている」と思っています（管理職）。
- 入社当時から長く橋梁設計に従事しておりますが、経験の浅いころからも、大規模なプロジェクトに携われており、自ら設計した橋を現場で目の当たりにすると、今でも大きな充実感、やりがいを感じています（管理職）。
- 出る杭を伸ばさず、チャレンジを妨げない、比較的やりたいことがやりやすい会社なのではないでしょうか？（管理職）
- 武蔵工卒の中ではめずらしく廃棄物関係の部署に所属しており、主に最終処分場の整備に係る計画・設計・監理の業務に携わって、もう 20 年以上経ってしまっています（管理職）。
- 目標に向かってチャレンジする熱い姿勢を感じます。入社し数か月ですが戦力外、邪魔と囁かれないうよう努力してまいります（理事）。

エイト日本技術開発所属の武蔵工大および東京都市大 OB・OG 一覧

2018.6.1現在 (19名)

氏名	支社	所属	卒業年月	学部
磯山 龍二	東京本社	代表取締役副社長	S53.3	工学部 (大学院)
杉山 滋	中国支社	事業推進部	S57.3	工学部 (大学院)
東 浩太郎	東京支社	インフラ保全センター	S58.3	工学部
佐藤 幸基	東京支社	事業推進部	S59.3	工学部
井出 孝	関西支社	国土インフラ部	H4.3	工学部
黒木 麻子 (旧姓：泉)	東京本社	技術企画部	H6.3	工学部
岩田 克司	東京支社	防災保全部	H7.3	工学部 (大学院)
吉田 友之	東京支社	都市環境・資源・マネジメント部	H7.3	工学部
佐々木 秀典	東京支社	防災保全部	H8.3	工学部
福田 勲	中国支社	国土インフラ部	H9.3	工学部
坏 聡史	東京支社	国土インフラ部	H15.3	工学部 (大学院)
片根 弘人	東京支社	防災保全部	H23.3	工学部 (大学院)
千野 駿也	東北支社	防災保全部	H25.3	工学部
藤原 寛和	中国支社	インフラ保全センター	H25.3	工学部
臼倉 和也	中国支社	防災保全部	H26.3	工学部 (大学院)
菅沼 宏希	東京支社	国土インフラ部	H26.3	工学部
大森 鞠魚	東北支社	国土インフラ部	H27.3	工学部
鈴木 彩乃	東北支社	国土インフラ部	H28.3	工学部
松田 雄太	中部支社	事業推進部	H30.3	環境学部



# 株式会社エイト日本技術開発

Eight-Japan Engineering Consultants Inc.

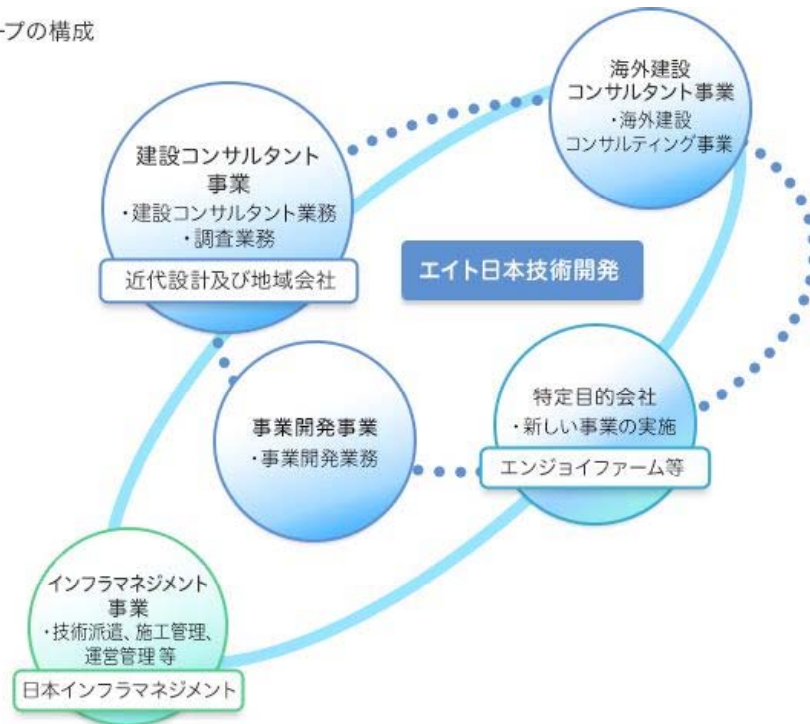
## 【ビジョン】

スピード感を持って、事業基盤及び経営資源の質・量の強化を図り、グローバルに事業展開する第一級のインフラ・ソリューション・コンサルタントを創造し、持続的な成長と企業価値向上を実現する。

## 【会社の概要】

(株)エイト日本技術開発は、建設コンサルタント業の使命と新たな領域の開拓を成し遂げていくために、半世紀以上の実績を有する(株)エイトコンサルタントと日本技術開発(株)が2009年に統合した、E・Jグループの中核企業です。グループの主力事業である建設コンサルタント事業を担うとともに、持ち株会社体制のメリットを活かしつつ、グループ全体の事業拡大に寄与しています。

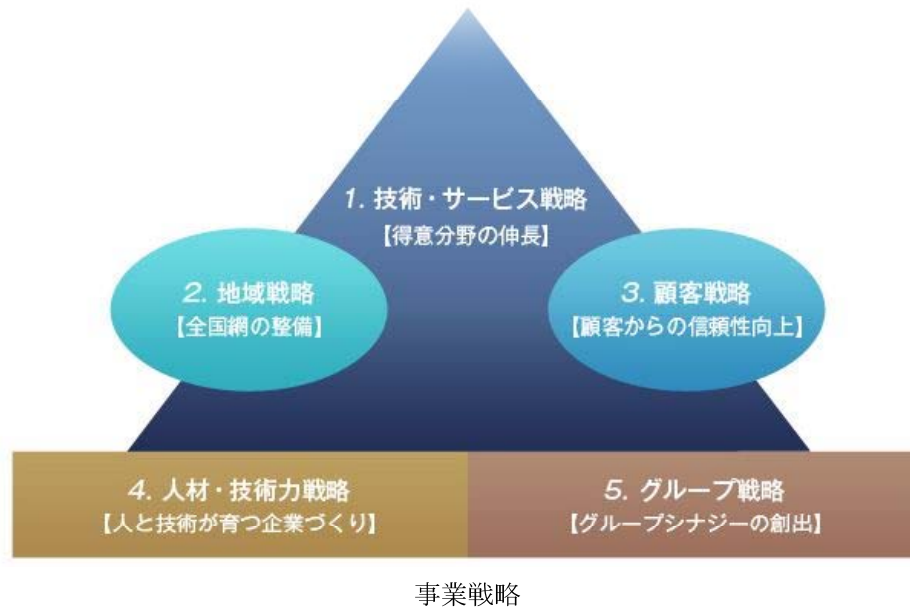
### ■E・Jグループの構成



### ■当社設立の経緯



# 我が国第1級の インフラ・ソリューション・コンサルタント



商号	株式会社 エイト日本技術開発
代表者	代表取締役社長 小谷 裕司 代表取締役副社長 磯山 龍二（武蔵工業大学 OB）
所在地	本店：岡山県／本社：東京都 支社：仙台、東京、名古屋、大阪、岡山、松山、九州 支店：全国 17 箇所／事務所および営業所：全国 31 箇所
設立	1957 年 5 月／2009 年 6 月（統合再編）
売上高	約 174 億円（平成 29 年 5 月期）
従業員数	879 名（平成 30 年 6 月 1 日時点） 技術系 741 名／事務系 138 名 技術士：387 名、技術士（総合技術監理）：97 名 RCCM：193 名、博士：21 名、一級建築士：12 名 他
グループ会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ E・J ホールディングス 株式会社（持ち株会社）</li> <li>■ 日本インフラマネジメント 株式会社</li> <li>■ 株式会社 近代設計      ■ 株式会社 共立エンジニア</li> <li>■ 共立工営 株式会社      ■ 都市開発設計 株式会社</li> <li>■ 株式会社 エンジョイファーム</li> <li>■ 株式会社 ストロベリーファーム</li> <li>■ 株式会社 那賀ウッド</li> </ul>



コア・コンピタンスと5つの重点分野



他 ●バンコク駐在員事務所

事業部：国土インフラ（道路・構造、河川・港湾）／防災保全（耐震・保全、地盤技術）／  
 都市環境・資源・マネジメント／計測・補償／インフラ保全センター／災害リスク研究センター  
 ／国際



## 【ニュース&トピックス】

### ホーチミン市建築研究センターとの協力覚書を締結

当社は 2018 年 9 月 1 日、ホーチミン市建築計画局建築研究センターとの間に共同研究等を目的とする覚書を締結しました。この度、磯山龍二代表取締役副社長をホーチミン市に派遣し、覚書に署名しました。

ホーチミン市建築計画局建築研究センターは、ホーチミン市の都市計画や建築分野の行政的な課題に対して、研究し、政策提言し、具体的な施策実施を支援する機関です。今回の覚書の内容は、ホーチミン市における重要な都市問題に対する共同研究や人材育成に向けた共同研修の実施、及び新しいプロジェクト提案等を行うことを内容としています。

### ベトナム国家土木大学との共催セミナーを開催

当社は 2018 年 8 月 29 日、ベトナム国国家土木大学（NUCE）において技術セミナーを開催しました。テーマは、「大都市における重要な課題とその解決策」。日本側からは、当社の小谷裕司社長を代表として、ベトナム人社員を含む 13 人の技術者が参加しました。今回のセミナーは、昨年 12 月に当社が、NUCE と締結した技術協力協定の一環として実施したものです。

今後も引き続き、セミナーを行いながら、ベトナム国の大都市問題を改善するインフラ整備等のあり方を検討し、必要なプロジェクトの開発を行っていく方針です。

## 2つのセンターを設立（2015.6）

### ■災害リスク研究センター

当社は古くから国内外の災害調査、耐震対策、軟弱地盤対策、砂防・地すべり対策、地震被害想定や防災計画などに積極的に取り組んできましたが、近年需要が高まる防災・減災対策の研究を担う専門組織として、2015 年 6 月に「災害リスク研究センター」を設立しました。

現在は地震防災、水防災、土砂防災の 3 分野において研究活動を進め、グループ内で培った専門技術を核に外部研究者や大学などと協働して技術力の向上と信頼性の向上を図り、国土の保全や安心して暮らせる基盤整備に貢献しています。

### ■インフラ保全センター

近年、多くの老朽化インフラ施設の維持管理・メンテナンスの問題がクローズアップされ、国・自治体とも本腰を入れてインフラの長寿命化に取り組んでいます。

今後益々増える保全系業務の需要に対して、専門的に携わる部署として、2015 年 6 月に「インフラ保全センター」を設立し、既設構造物の点検・診断・分析、補修・補強設計、長寿命化・更新計画の策定などに会社としてより一層力を入れて取り組むこととしました。

## 表彰等

■「西仲橋」が、2017 年度土木学会デザイン賞優秀賞を受賞

<http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/839>

■「朝明川橋」が平成 28 年度土木学会田中賞（作品部門）を受賞

<http://www.ejec.ej-hds.co.jp/common/pdf/topics170614.pdf>